

自治体名	栃木県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

本県における県民健康づくりについては、県の健康増進計画「とちぎ健康21プラン」における目標達成に向け、各重点領域毎に目標を設定、各種施策を実施している。

特に、健康づくりを県民運動として盛り上げるため、月別に統一テーマを設定し、ボランティアや民間企業等と連携しながら、各種キャンペーン活動を、官民協働で取り組んでいる。

女性特有のがんについては、乳がん検診啓発事業「とちぎdeピンクリボン」を、平成18年度から実施している。

本県における女性の健康課題は以下に記載のとおりであり、これらの課題に対応するため、特に女性をターゲットとした健康づくり施策として、乳がん、子宮がんなどの女性特有のがんについての知識や検診受診勧奨、各ライフステージにおける女性特有の健康課題についての情報、喫煙の害について、特にこれら関係する年代の女性に向けて、関係機関や団体の協力を得ながら、幅広く普及啓発活動を実施する。

自治体の特徴

栃木県は、東西84km、南北98kmのほぼ楕円形をなしており、北西部は山岳地帯で、県央地域から県南地域には広大な関東平野が広がっている。

現在、5つの二次医療圏が設定されており、それぞれの圏域における保健医療需要を把握しながら、計画的な保健医療供給体制を整備推進している。

人口構成・(H21.10.1現在)

	総数	男	女
人	2,010,732	999,627	1,011,105
割合(%)	100	49.7	50.3

15歳未満	275,339	141,171	134,168
15～64歳	1,296,809	669,071	627,738
65歳以上	434,605	186,981	247,624
75歳以上	210,540	78,800	131,740
85歳以上	55,678	15,196	40,482

女性に関する健康課題

本県における女性の健康課題としては、本県における「平成15年度県民・健康調査」によると、全ての年代の女性の肥満者（BMI25以上）の割合が全国平均を上回っている。全ての年齢段階で塩分摂取量が全国平均を上回っている。特に20代30代の若年女性における喫煙率が高いといった課題があげられている。

女性のがん検診の受診率については、23%から38%と全国平均は上回っているものの、目標とする50%にはほど遠い状況である。特に女性特有のがんである乳がん、子宮がんについては、早期発見早期治療が重要であるため積極的な検診受診の啓発が必要である。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	4,179千円
(2) 中高年期における健康支援事業	1,704千円
(3) 女性のがん支援事業	374千円

計

6,257千円

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	女性の喫煙対策
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談
事業費(千円)	1,704千円

事業目的

女性の喫煙、特に20代から30代の若年女性の喫煙については、本人への様々な健康被害のみならず、胎児、子供など周囲への受動喫煙の害がより懸念されるところ、本県においては、特にこの年代の喫煙率が高いところ、これら年代の女性向けの喫煙の害について、一層の普及啓発を行うにあたり、これら年代へ喫煙の害を伝えるための効果的な媒体及び伝達手法について実証、評価検討を行うため、本事業を行う。

事業対象

県内の10代後半から30代の女性。学生。妊産婦や乳幼児を持つ母親等

事業実施体制・展開

1 若い女性向けの喫煙の害についての啓発資料の作成・配布

- ・若い女性が読むことに考慮し、装丁や構成を配慮、工夫する。
- ・単に健康被害という面のみではなく、美容や出産等、女性が入りやすい内容とする。
- ・作成に当たっては、専門医による指導を受け、正しい知識、情報となるよう努める。
- ・配布については、どの様な伝達方法がより効果的かを検討するため、女子学生の手に取りれるよう短大等の学校に配布するほか、若い女性が訪れる店舗や県内の医療機関等、これら女性の手を取る可能性が高いと考えられる場所に、幅広く配布することとする。

2 妊産婦や乳幼児を持つ母親向け喫煙の害についての啓発資料の作成・配布

- ・仕事、家庭、育児など自らの健康に目を向ける余裕が少ない、これら年代の妊産婦、乳幼児の持つ母親等に向けた啓発資料として、子ども向けの喫煙の害に関する冊子(喫煙の害についての絵本)を作成、配布する。
- ・作成に当たっては、専門医による指導を受け、正しい知識、情報となるよう努める。
- ・配布については、どの様な伝達方法がより効果的かを検討するため、これら対象者の目に触れやすい、県内小児科医療機関、幼稚園、保育園等、幅広く配布することとする。

これら事業により作成した資料については、メディア等を活用し、またイベント等において活用し、より多くの県民にその活動を広報することとする。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 啓発資料の作成 「若い女性向け啓発資料」70,000部、「妊産婦や乳幼児を持つ母親向け啓発資料」4,000部
- ② 啓発資料の配付 「若い女性向け啓発資料」県内短期大学、市町、広域健康福祉センター(保健所)等に配布。
「妊産婦や乳幼児を持つ母親向け啓発資料」県内小児科医療機関、幼稚園、保育園、市町、広域健康福祉センター(保健所)等に配布。
- ③ 本資料のアンケートの実施 回答数「若い女性向け喫煙の害啓発資料 事業所、156箇所、利用者 761名」「妊産婦や乳幼児を持つ母親向け喫煙の害についての啓発資料 利用者・団体等 263団体・名」
- ④ アンケート結果(若い女性向け喫煙の害啓発資料)
 - ア. 「今後活用できる 100/156箇所」「この冊子を読んだのたばこの害への意識の変化 あった:337、少しはあった:240/761名」「この冊子は役に立つか 役に立つ:658/761名」
 - イ. アンケート結果(妊産婦や乳幼児を持つ母親向け喫煙の害についての啓発資料)
 - ウ. 「感想 よい:197、よくない 8/263団体・名」「活用できるか できる:176、できない:25/263団体・名」
- ⑤ その他の効果 当冊子の作成・配布後、新聞社からの取材や冊子の送付希望(県外含)等の波及効果があった。

事業の工夫点

1. これまでの喫煙に関する啓発としては一般的な健康被害の周知にとどまっていたものを、女性に向けた資料を作成にあたって、特に美容や出産等女性に身近な喫煙の害についての情報を切り口として、情報を掲載することによって、これまで以上に効果的な喫煙の害及び受動喫煙についての啓発内容になった。
2. 若い女性が手に取りやすいものとして、装丁や構成を工夫した結果、一般の店舗等にも配置しやすいものになった。
3. 喫煙に関する絵本であり、また、実話を題材にした物語という、これまであまりなかったものであり、これを作成、配布することにより、より喫煙の害について、関心を持ってもらうことが出来た。

事業の効果についての評価・考察

「若い女性向け喫煙の害啓発資料」

1. 大きさ、装丁、デザイン等については高評価であった。一方で、若い女性向けに内容を簡潔に押さえたため、当冊子を読んで、禁煙を勧めるきっかけにはなるが、喫煙者が禁煙する行動変容に至るかどうかが疑問の声もあり、実際の行動変容に至るかどうかについての評価は人により意見が分かれる事が考察される。
2. 簡潔でわかりやすくいいという意見がある一方、もっと詳しく知りたかったという意見があり、たばこに対する認識の違いにより、啓発資料に対する意見の温度差が見受けられることが考察される。

「妊産婦や乳幼児を持つ母親向け啓発資料」

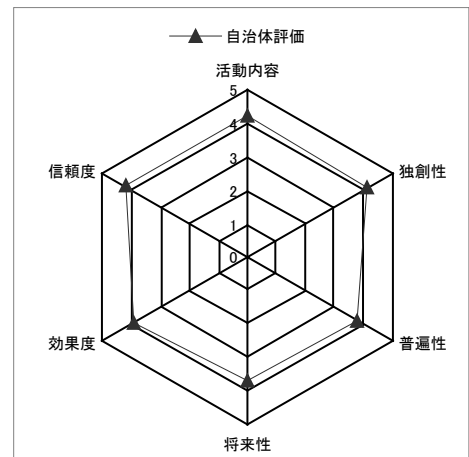
1. 幼児向け絵本という装丁から、乳幼児等の関係者には、たばこの害がより明瞭に伝わり、関係者からの反響も大きく、子供を取り巻く関係者には受動喫煙の害について考えるきっかけとなり、母親等への喫煙の害についての周知が期待できる。
2. 内容について、高評価の意見がある一方で、幼児への読み聞かせには影響が大きいという意見もあり、大きく分かれた評価となったことは、健康を害することが明らかでありながら社会的に容認しているという、喫煙を取り巻く複雑な環境・背景・実状が考察される。

今後の課題

1. 限られた部数のなかで、より対象者の手にとってもらえるよう、配布方法等について検討が必要。
2. 作成した当初は反響が大きいが、今後、この取り組みをどう継続していくかが課題。

ホームページ	http://www.pref.tochigi.lg.jp/welfare/kenkoudukuri/kenkoudukuri/kenkodukuri-index.html
照会先	栃木県保健福祉部健康増進課健康づくり推進担当 028-623-3094

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	効果があると思う。
②独創性	4.1	絵本の内容は大変すばらしい。 実体験を元にしたストーリーには感動した。
③普遍性	3.8	読み聞かせに活用できる。 外来の待合室においてみる。
④将来性	3.7	子どもを対象とした本は将来大きな効果を生むものと思う。
⑤効果度	3.9	生の声を届けることは、効果的だと思う。
⑥信頼度	4.2	物語の中に受動喫煙のことが入っていたら、よりよかった。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	女性のライフステージに応じた健康支援
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input type="checkbox"/> 情報提供
事業費(千円)	4,179千円

事業目的

思春期から30代、中高年期にかけての各ライフステージにおける、女性の健康に関わる特に重要な知識や基本的な生活習慣等を理解することを目的として、月経周期やダイエット、女性特有のがん、更年期障害、骨粗鬆症など女性が生涯を通じての健康づくりを推進する上で、知っておきたい知識、情報について効果的に普及啓発するための媒体及び伝達方法等について実証、評価検討を行うため、本事業を行う。

事業対象

県内の思春期から老年期にかけての一般女性

事業実施体制・展開

- ・ 女性の各ライフステージにおける健康課題について幅広く網羅できる資料を作成する。
 - ・ 一般の女性が読むため、分かり易く、手に取りやすい構成、内容とする。
 - ・ 作成に当たっては、婦人科等の専門医による指導を受け、正しい知識、情報となるよう努める。
 - ・ 産婦人科医会等の関係機関と連携を取り、効果的な事業展開を行う。
 - ・ 配布に当たっては、どのような伝達方法がより効果的かを検証するため、これら対象者の目に触れやすい、県内婦人科医療機関、市町、広域健康福祉センター(保健所)等窓口への配置のほか、店舗等をもつ民間企業における窓口、女性関係の団体等、幅広く配布することとする。
- これら事業により作成した資料については、メディア等を活用し、またイベント等において活用し、より多くの県民にその活動を広報することとする。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 冊子作成数 25,000部
- ② 冊子配布先 県内婦人科医療機関、市町村、広域健康福祉センター(保健所)、銀行店舗窓口、女性団体、その他関係イベント等において配布
- ③ 冊子利用者へのアンケート調査の実施 (回答数 551名)
- ④ 「本冊子が役に立ったか」(役にたった 537人/551人)
- ⑤ 「本冊子を読んで健康づくりへの意識の変化はあったか」(あった 506人/551人)
- ⑥ その他の効果 当冊子の作成・配布後「企業の健康管理のための冊子希望申し込み 1社」「冊子の追加配置希望 2医療機関」「冊子の送付希望 31件」等の波及効果があった。

事業の工夫点

- ・ 市販による啓発媒体を活用し、それに本県独自の健康課題や婦人科における新情報、婦人科医療機関についての情報を盛り込んだことにより、一般的な行政による普及啓発資料に比べ、より読みやすく、女性の手に取りやすいものとなるよう工夫した。
- ・ 関係機関等と連携を取るとともに、メディア、関係イベント等を活用することにより、女性特有の健康課題というこれまでにない情報について広く普及出来るよう工夫した。

事業の効果についての評価・考察

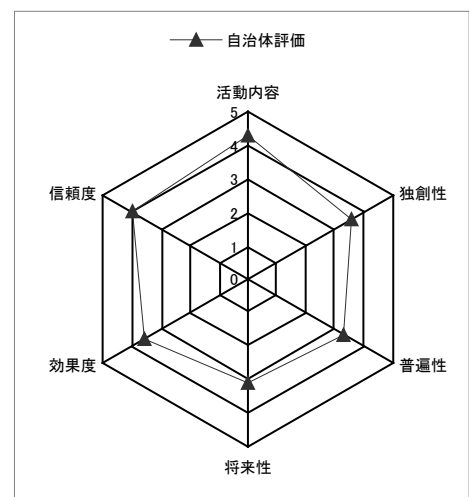
- ① 女性の健康づくりについて、「掲載している内容を初めて知りました」というアンケートにおける感想が多ことから、女性特有の健康課題という観点から、特にホルモンバランスに着目した女性の健康づくりについては、まだ県民に浸透している状況ではないことが考察される。
- ② その様ななかで、女性のライフステージに応じた健康課題や女性特有の疾病に特に着目して、啓発冊子を作成、配布することは、「知らなかったこと、また、なかなか聞くことができなかったことを知ることができた。」「女性としてライフステージを見渡すきっかけとなった。」という利用者からのアンケート結果からも、今後の女性の健康づくりに寄与できるものと評価できる。

今後の課題

啓発冊子の配布ということは、限られた部数のなかでの活動となってしまいますので、効果が限定的となってしまいます。また、どのように、女性の手にとって貰うかについて、民間企業等と連携を取って店頭窓口に配置するなどによる対象の女性がよく集まる場所への配置や冊子自体の広報を積極的に行うなどの工夫、検討が必要。

ホームページ	http://www.pref.tochigi.lg.jp/welfare/kenkoudukuri/kenkoudukuri/kenkoudukuri-index.html
照会先	栃木県保健福祉部健康増進課健康づくり推進担当 028-623-3094

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.3	冊子は大変良くできている。
②独創性	3.6	思春期に力を入れてほしかった。
③普遍性	3.3	冊子を役立てる話し合いの場でわかりやすく説明されると効果が出ると思う。
④将来性	3.1	対象者にいかに読んでもらうかの工夫が必要
⑤効果度	3.6	思春期の健康管理の部分について分冊して教育現場で活用できないか。
⑥信頼度	4.0	冊子は良く出来ているが読んでもらう人は少ないのでは。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性特有のがん検診の啓発
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 啓発活動 <input type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費（千円）	374千円

事業目的

日本人の死亡原因の第1位である「がん」について、特に早期発見・早期治療のため、検診受診率の向上が喫緊の課題である。特に女性特有の「がん」である乳がん、子宮がんについては、早期発見による治療が大変有効であるため、女性特有のがんについての啓発を行うことを目的として、イベントを実施する。

事業対象

主に子宮頸がん、乳がんについての知識が必要とされる県内の20代～50代の年代の一般女性を対象とする。

事業実施体制・展開

- ・ イベントの実施に当たっては、検診機関や患者団体、その他民間企業、マスコミ関係等と連携し事業を実施することとする。
 - ・ 講演会等については、専門的な知識を必要とするため、専門医等が参加するとともに、患者団体等による協力のもと、検診受診の大切さについて、より県民の方に強く働きかける方法を検討する。
 - ・ 講演会等のほか、検診機器の展示や患者団体による活動報告、民間企業による展示ブース等を設け、様々な角度から、女性特有のがんについて、知っていただく機会を提供するものとする。
- イベントの実施に当たっては、メディア等を活用し、より多くの県民にその活動を広報することとする。

事業目標・評価項目 及び その結果

(1) 来場者数・アンケートの結果

来場者数 103名

アンケート結果（回答数42名）

- ① 内容 講演会（非常によい：27名 良い：32名） 座談会（非常によい：15名 良い16名 どちらでもない 1名）
- ② 企画展示でよかったもの（マンモ車等：14名 検診機器等：21名 団体の活動展示：14名 企業の展示 7名）
- ③ 当イベントに参加して今後検診を受診しようと思ったか（思った：36名 思わない：1名）

(2) 参加団体、企業等

- ・ 乳がん患者会 2団体参加、検診団体1団体参加、協賛企業等3団体参加
- ・ 参加団体の活動内容 活動内容の展示やピンクリボングッズ等の頒布、検診機器等の展示、乳がん、子宮頸がんについてのパネル展示等による説明、手術後の補正下着等の展示、説明等

事業の工夫点

- ・ 検診機関や患者会、民間企業等の協力のもと、女性特有のがんについての普及啓発を協働して取り組むことが出来た。
- ・ ピンクリボン運動としてこれまでも実施していた「乳がん」検診の啓発に加え、もう一つの女性特有のがんである「子宮頸がん」について、承認されたばかりの「子宮頸がんワクチン」の話題も交えての講演会を実施することが出来た。
- ・ 医療、患者会、マスコミの関係者を交えた座談会を実施し、さまざまな立場、フィールドから乳がん検診受診の啓発を行っていくことの重要性について話し合うことにより、各関係機関、団体における幅広い活動のきっかけづくりを目指した。

事業の効果についての評価・考察

- ・ 本事業を実施し、協賛企業や団体との連携を行うことができた。これまで関係のなかった企業や団体が、本事業を通じて連携して事業を行うことが出来、また、初めて当事業を知って参加した団体もあり、次第にその輪が広がっていることを認識できた。ピンクリボン運動については、全国的にも広まっているところ、アンケート結果等から、今後とも、当事業を、より活発におこなうとともに、継続することが、検診受診率向上に向けた啓発を行う上で必要であることが考察される。
- ・ 子宮頸がんという、これまであまり取り上げられなかった部分について、その活動の中に取り込むことができたことで、今後、当事業を実施する上で、啓発の対象者や連携する企業・団体の幅が広がることが期待できる。

今後の課題

- ・ ピンクリボン運動についての認知度は上がっているものの、それを、どのように、若年女性など、検診に無関心な層に伝えていくか、またいかにこの運動を継続していくかが検討課題。
- ・ 講演形式である場合、結果的に、検診等に関心のある層を中心とした集客となってしまうので、今後、実施については、対象者が多く集まる場所においてイベントを開催したり、検診に関心のない方が集客できる構成を考えるなどの工夫が必要。

ホームページ	http://www.pref.tochigi.lg.jp/welfare/kenkoudukuri/kenkoudukuri/kenkoudukuri-index.html
照会先	栃木県保健福祉部健康増進課健康づくり推進担当 028-623-3094

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.3	より活発な活動が必要
②独創性	3.4	子宮頸がんワクチン投与については、何らかの施策が必要では
③普遍性	3.8	活動が活発に続くことを願う
④将来性	3.7	いかに継続することが課題
⑤効果度	3.7	ちらしよりポスターにするなど、(もっと広報に力をいれるべき)。思春期の方々にもっと知れ渡る様に。
⑥信頼度	3.9	活動の継続が必要

